

6

結婚や子育てに関する意識
～「少子化社会対策に関する意識調査」報告書を中心に～【特集】

第4項及び第5項において紹介した各種調査によると、未婚者（18～34歳）の多くは「いずれ結婚するつもり」であり（第1-1-14図）、理想の子供の数は平均2人以上となっているものの（第1-1-21図）、晩婚化が進むとともに、未婚率は上昇し（第1-1-9図）、完結出生児数も近年2を下回っている（第1-1-13図）。結婚や妊娠・出産に対する国民の希望と、実際の結婚・出生行動の間には隔たりがあり、「結婚の希望の実現」と「希望どおりの人数の出産・子育ての実現」の大きく2つの観点から、少子化対策を推進していく必要がある。

少子化社会対策大綱（2015（平成27）年3月閣議決定、以下「大綱」という。）においては、結婚や出産・子供についての一人一

人の希望を叶えることを基本的な目標としており、今後に向けた施策の効果的推進を図るためには、取組状況等に関する国民の評価や意識を把握することが重要である。

大綱の施策の進捗状況の点検・評価の参考とし、また現在の状況や政府の施策への認識やニーズを把握するとともに、前項までの調査で示された結婚や出産・子育てについての意識をさらに深掘りするため、インターネットによる意識調査（以下「本調査」という。）を実施した。

本項では、

（1）結婚に関する意識

（2）夫婦の働き方や家事・子育てに関する意識

に分けて、調査結果の一部を紹介する。

「少子化社会対策に関する意識調査」概要

調査目的：大綱の施策の進捗状況の点検・評価の参考とし、また現在の状況や政府の施策への認識やニーズを把握するため

調査方法：インターネットによる意識調査（委託調査）

調査時期：2018（平成30）年12月7日～同年12月18日

調査範囲：全国

調査対象：① 20～59歳の男女 11,889人

② 回答者もしくは配偶者が3年以内に妊娠・出産をした20～49歳の男女（①と重複なし） 2,117人

③ 3年以内に結婚をした20～49歳の男女（①と一部重複。②、③との間で重複なし） 2,076人

④ 未婚（結婚経験のない）20～49歳の男女（①と一部重複） 2,010人

※ 2015（平成27）年国勢調査の構成比に近似するよう作成したサンプルの割付を目標数として配信を行い、最終的な有効回答数を分析対象とした。

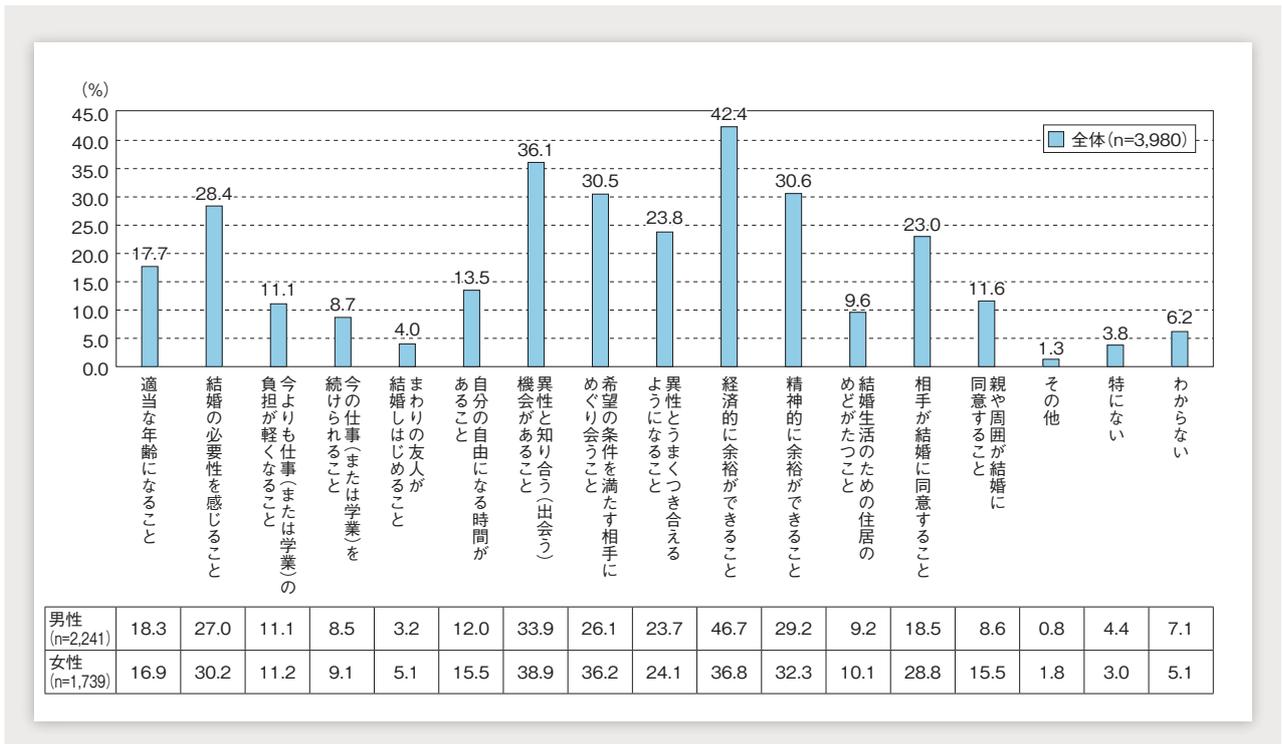
(1) 結婚に関する意識

〈結婚に必要な状況〉

結婚を希望している者で結婚していない20～40歳代の男女（調査対象①、④のうち3,980人）に、どのような状況になれば結婚すると思うかを聞いたところ（複数回答）、

「経済的に余裕ができること」が42.4%と最も高く、続いて「異性と知り合う（出会う）機会があること」が36.1%、「精神的に余裕ができること」が30.6%、「希望の条件を満たす相手にめぐり会うこと」が30.5%となっている。（第1-1-29図）

第1-1-29図 結婚に必要な状況



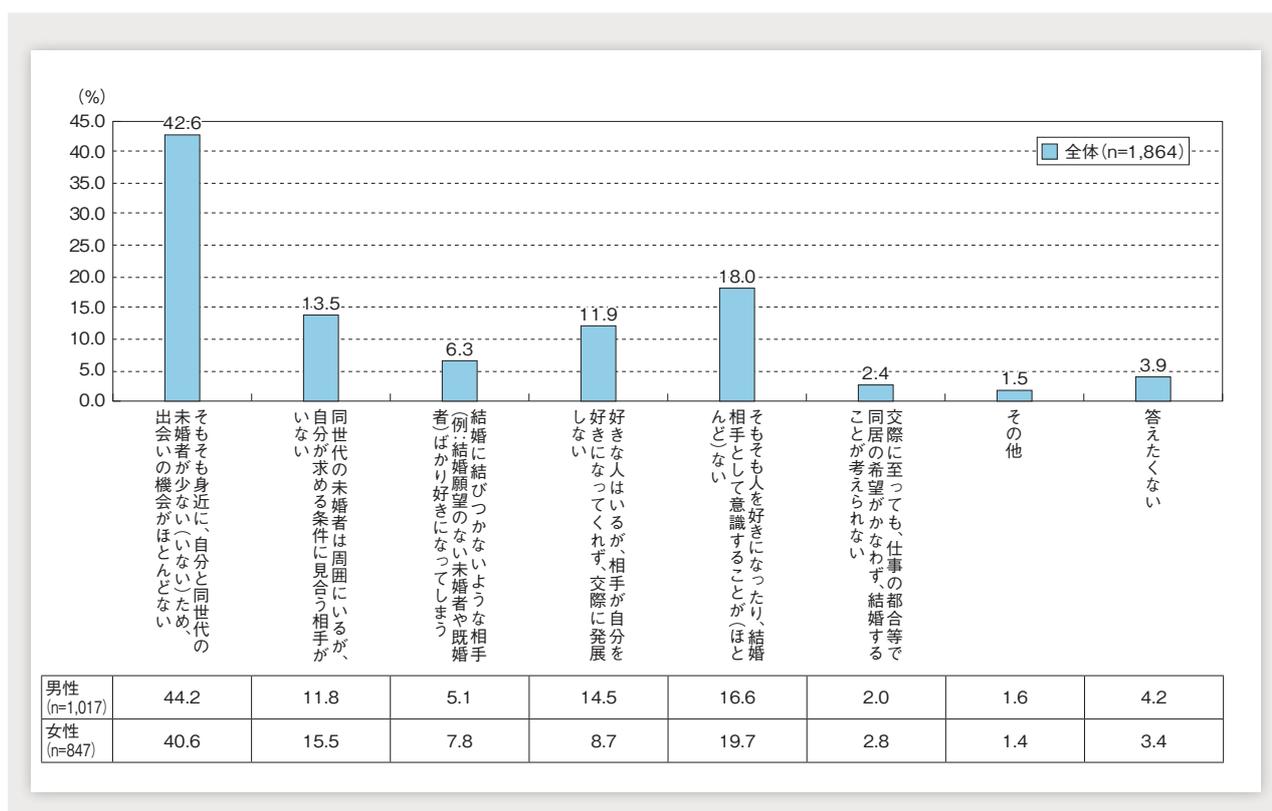
〈結婚していない理由「適切な相手にめぐり合わない」の具体的内容〉

結婚を希望している者で結婚していない20～40歳代の男女（調査対象①、④のうち3,980人）のうち、今結婚していない理由として「適切な相手にめぐり合わない」と回答した者（1,864人）に、その具体的な内容を聞いたところ（単一回答）、「そもそも身近に、自分と同世代の未婚者が少ない（いない）ため、出会いの機会がほとんどない」が42.6%で最も高く、次いで「そもそも人を好きになったり、結婚相手として意識することが（ほとんど）ない」が18.0%、「同世代の未婚者は周囲にいるが、自分が求める条件に見合う相手がいらない」が13.5%となっている。

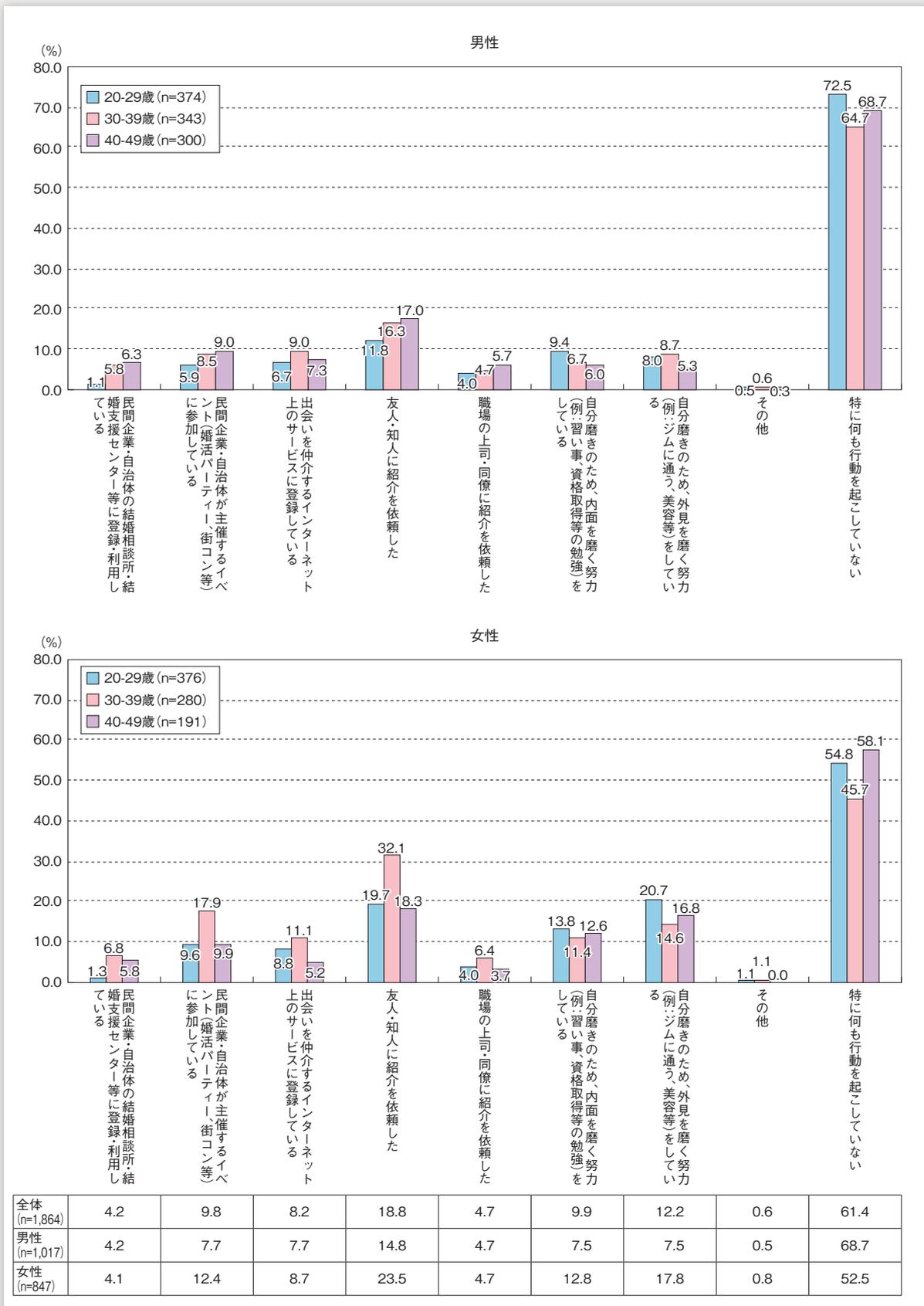
（第1-1-30図）

また、具体的な相手を探すため、何か行動を起こしたかを聞いたところ（複数回答）、全体では、約6割が「特に何も行動を起こしていない」と回答した。性年代別では、男性はどの年代でも、女性と比べて「特に何も行動を起こしていない」の割合が高くなっている。また、行動の内容について、具体的な行動を起こしている割合が比較的高い30歳代の女性では「友人・知人に紹介を依頼した」が32.1%、「民間企業・自治体が主催するイベント（婚活パーティー、街コン等）に参加している」が17.9%と、高い割合となっている。（第1-1-31図）

第1-1-30図 「適切な相手にめぐり合わない」の具体的内容



第1-1-31図 具体的な相手を探すための行動

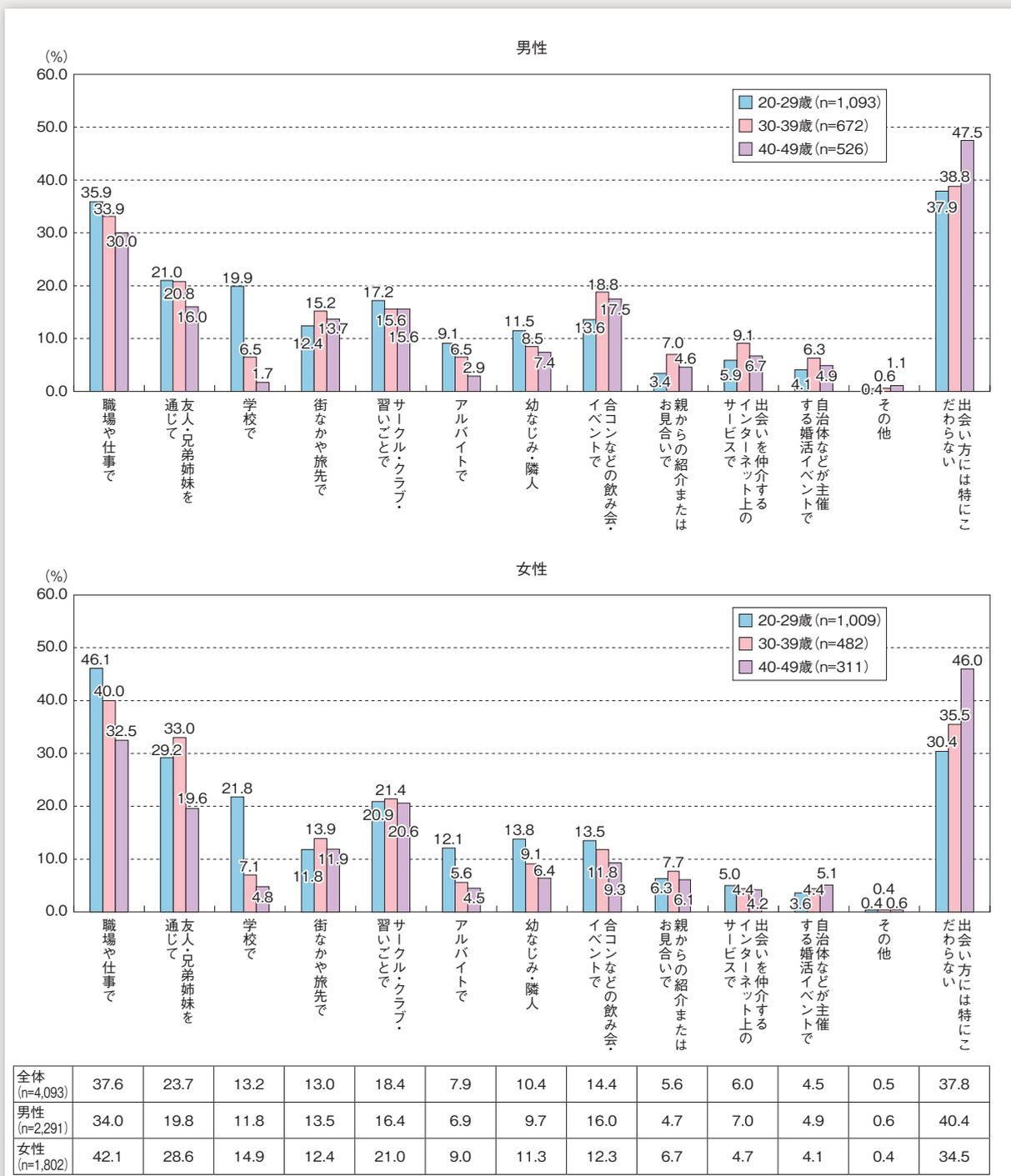


〈結婚相手との出会い方〉

結婚を希望している者で結婚していない20～40歳代の男女（調査対象①、④のうち4,093人※婚約中含む）に、結婚相手との理想の出会いの場について聞いたところ（複数

回答）、「出会い方には特にこだわらない」と「職場や仕事で」が多くなっている。性年代別でみると、特に20歳代の女性で「職場や仕事で」という回答が多くなっている。（第1-1-32図）

第1-1-32図 結婚相手との理想の出会い方

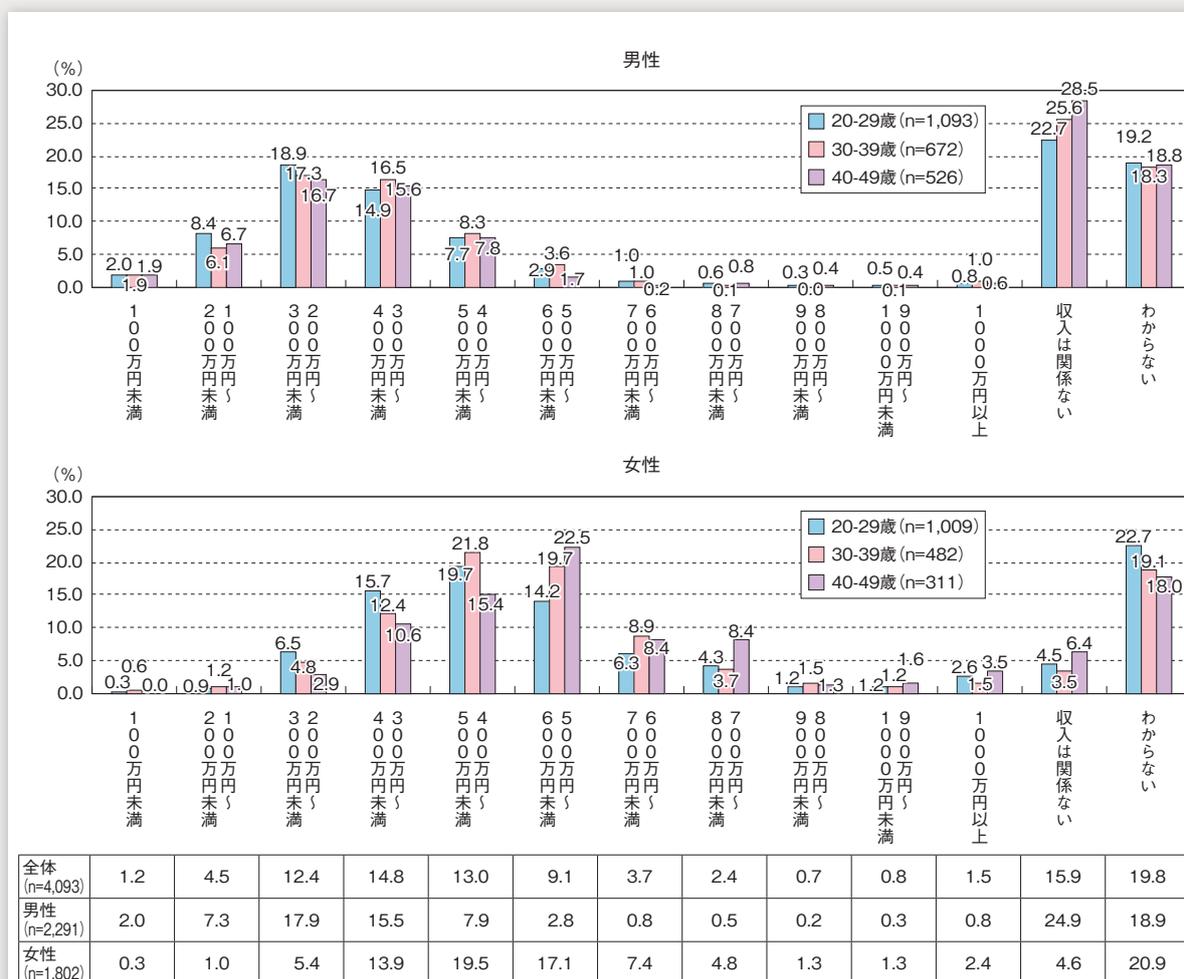


「出生動向基本調査」(国立社会保障・人口問題研究所)によれば、結婚のきっかけとなった出会いとして「職場や仕事で」と回答した人の割合は近年減少が続いているが¹、自分が思い描く結婚相手との理想的な出会いの場について、本調査では特に20歳代で、職場や仕事に出会いのきっかけを求める者の割合が高くなっている。

〈結婚相手に求める条件(理想の年収)〉

結婚を希望している者で結婚していない20~40歳代の男女(調査対象①、④のうち4,093人※婚約中含む)に、結婚相手の理想の年収を聞いたところ(単一回答)、男性では「300万円未満」「収入は関係ない」が女性と比べて高く、女性では「400万円以上」の割合が男性と比べて高くなっている。(第1-1-33図)

第1-1-33図 結婚相手に求める条件(理想の年収)

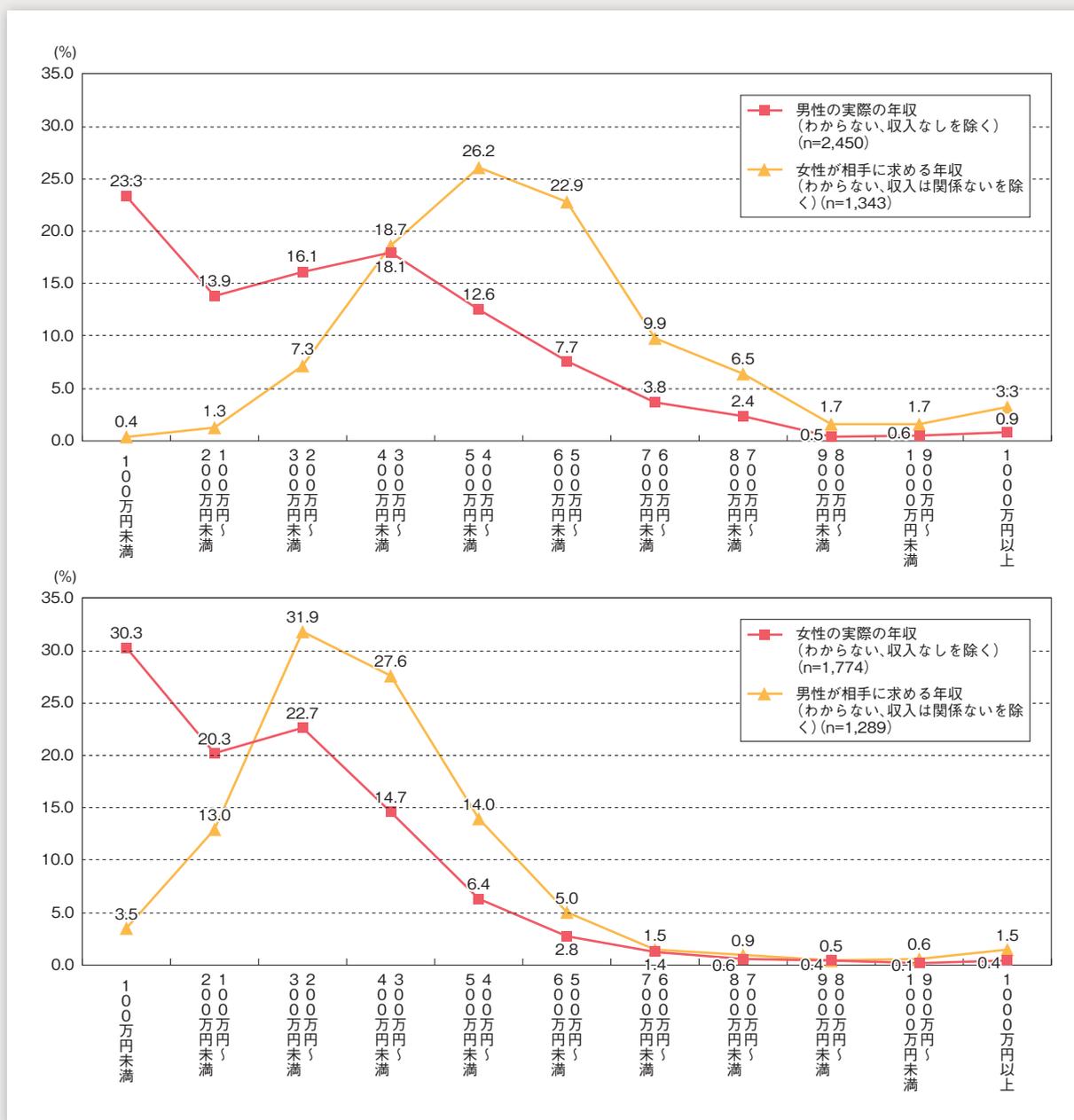


1 夫婦が出会ったきっかけの構成をみると、「職場や仕事で」は第10回調査(1992年)の35.0%をピークに減少が続いており、第15回調査(2015年)では28.2%となっている。

実際の男女の年収分布と比較すると、特に女性が結婚相手に求める年収と、男性の実際の年収には開きがあることがわかる（第

1-1-34図）。また、特に女性は、自分と同等以上の年収を相手に求める者の割合が高い。

第1-1-34図 結婚相手に求める条件（理想の年収と実際の分布との比較）



このように、結婚の希望の実現に対する障害となっているのは、経済的負担感や出会いの機会減少、結婚相手に求める理想と現実のギャップによりマッチングが難しいことなどが考えられる。また、結婚を希望しながら相手を探すために具体的な行動を起こしていない者も多い。

少子化対策の観点からは、若い世代が結婚生活を見通せるような経済的基盤を整え、ライフ（キャリア）プランニングを支援するとともに、職場内外での様々な活動に参加できる機会を増やすことなどにより、結婚を希望しながら実現できていない、あるいは実現に向けた行動を起こせていない者に対する支援

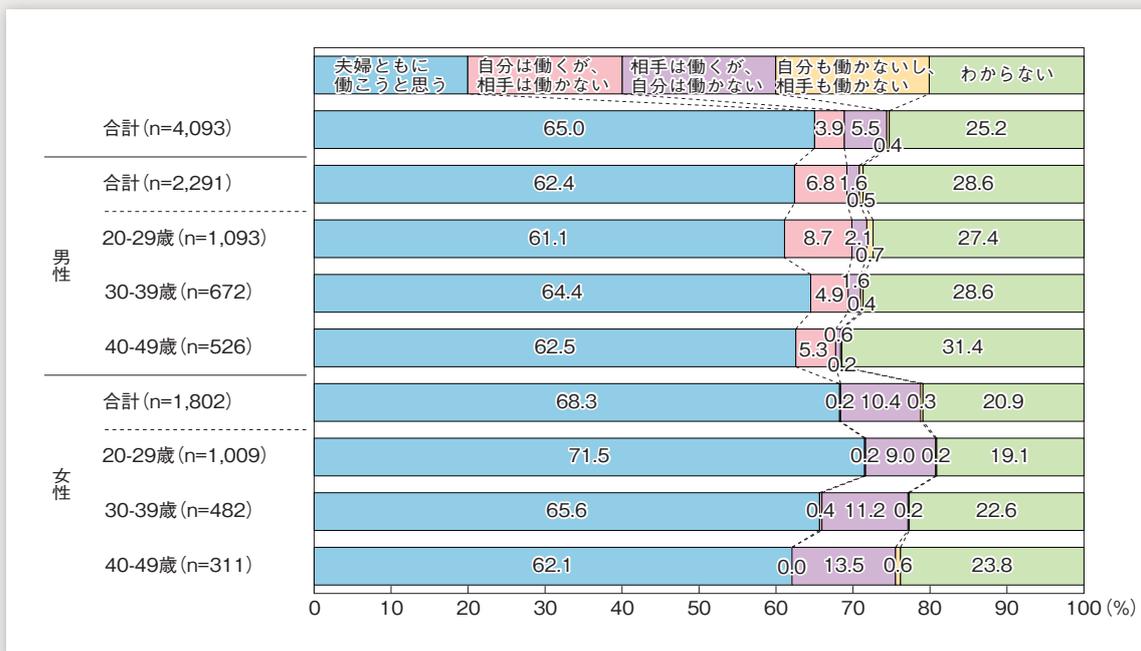
を一層充実することが求められる。

（２）夫婦の働き方や家事・子育てに関する意識

〈結婚後の働き方とその理由〉

結婚を希望している者で結婚していない20～40歳代の男女（調査対象①、④のうち4,093人※婚約中含む）に、結婚後の働き方について聞いたところ（単一回答）、60%以上が結婚後「夫婦ともに働こうと思う」と回答した。一方で、男性の3割近く、女性の約2割が「わからない」と回答している。（第1-1-35図）

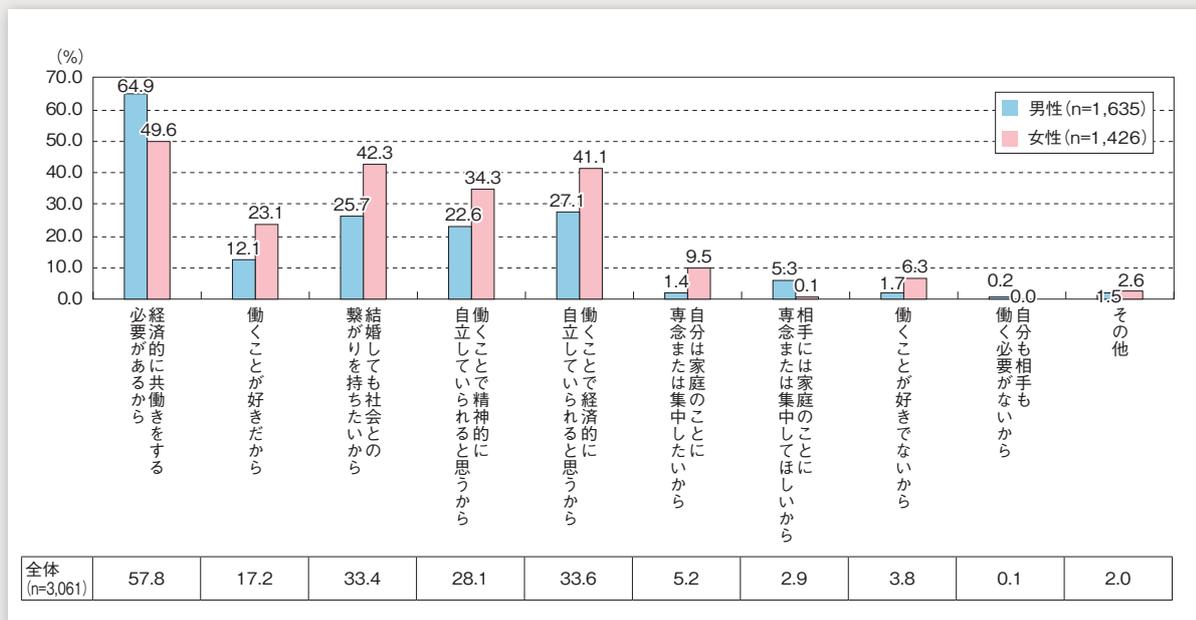
第1-1-35図 結婚後の夫婦の働き方



上記のように回答した理由を聞いたところ（複数回答）、「経済的に共働きをする必要があるから」が57.8%と最も高い。次いで、「働くことで経済的に自立していただけると思うから」が33.6%、「結婚しても社会との繋がりをもちたいから」が33.4%、「働くこと

で精神的に自立していただけると思うから」が28.1%と続き、これら3つの回答は、特に女性に多くみられ、男女ともに若い世代の経済的基盤の安定や、仕事と家事・育児を両立しやすい環境整備が重要であるといえる。（第1-1-36図）

第1-1-36図 結婚後の働き方についての回答理由

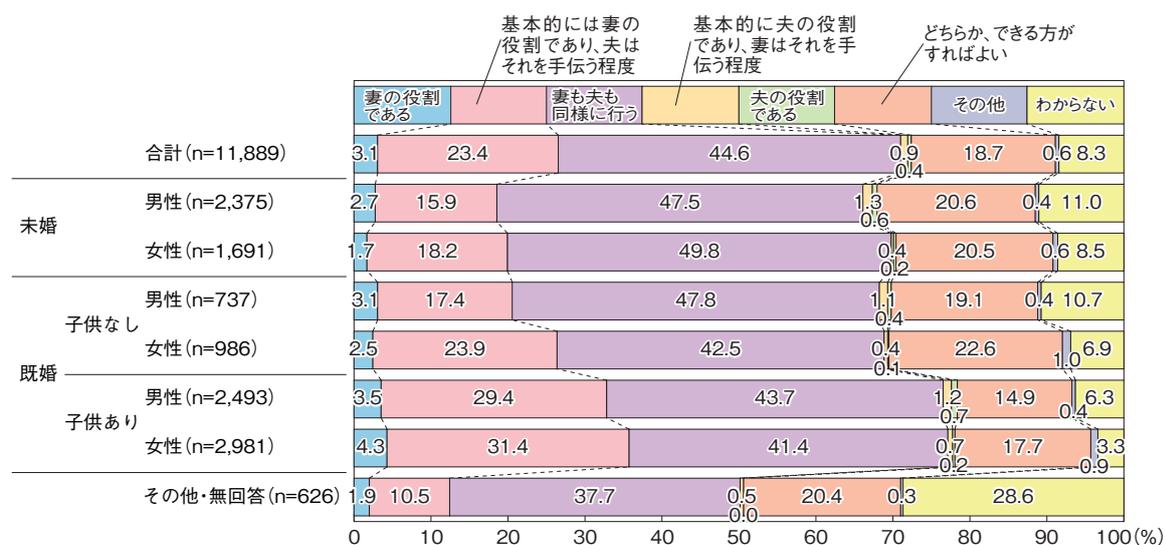


〈家庭での家事・育児の分担〉

20～50歳代の男女（11,889人）に、家庭での家事・育児は、だれの役割だと思うかを聞いたところ（単一回答）、「妻も夫も同様に行動

う」が44.6%と最も高く、次いで「基本的には妻の役割であり、夫はそれを手伝う程度」が23.4%、「どちらか、できる方がすればよい」が18.7%となっている。（第1-1-37図）

第1-1-37図 家庭での家事・育児の役割



また、現在自らの家事や育児に費やす時間をどのように評価するか聞いたところ（単一回答）、全体では「ちょうどよい」が58.2%と最も高かった。

ただし、子供がいる既婚男女を比較する

と、「短い」「短すぎる」は男性の方が高い割合となっている一方、「長い」「長すぎる」は女性の方が高くなっており、性別により違いがみられる。（第1-1-38図）

第1-1-38図 自らの家事・育児に費やす時間の評価

